

## 1 目的

本校園芸工学・農業経済科の教科学習においては、これまでも地域の特性を活かしたマメ類の栽培、フラワーデザインへの取組、販売会を通して、農業に関する学習内容の専門性や意識向上に図るとともに、学校及び生産物のPR等に努めてきている。

それぞれの研修や取組等を通して、農業への興味・関心及び意識向上を図る。

## 2 実施状況

### (1) 農業大学校等の視察

農業大学校では、各学科の特色や研究の概要に関する説明を受け、学生寮の見学等を行うことで、生徒の進学に対するより具体的なイメージを高めるとともに、農業への意識向上を図った。

#### ○生徒の感想

「卒業して様々な職業につけるところが魅力である」

「卒業するまでに10種類以上の資格を取ることができるところが魅力的だった」

### (2) 農業開発総合センターへの視察の実施

#### ア 病理昆虫研究室

IPM技術の仕組みや基本的な考え方について説明を受けるとともに、AIを使ったアプリによる病害虫診断が実用化される状況を教えていただき、生徒は興味・関心を高めた。

#### ○生徒の感想

「益虫を集める植物があることを知った」

「AIは今後も増えていくと思うので、しっかり学んでいきたい」

#### イ 野菜研究室

指宿特産のマメについて、最新の研究や育種の状況について説明を受けた。生徒は育種の基礎や原理を学ぶとともに、現在、学校で育てているマメの栽培管理についても理解を高めた。

#### ○生徒の感想

「何回も交配を繰り返して今の品種ができていたので大切に育てたい」

### (3) 営農の門出を励ます会の実施

本年度の卒業生のうち3名が鹿児島県立農業大学校へ進学、4名が農業団体への就職が決定した。今後の地域農業への貢献等を期待し、これら7名の生徒を励ます会を実施した。

指宿市長及びJAいぶすき組合長からも励ましの言葉をいただいた。

## 3 今後の課題及び取組

本助成の継続的な御支援により、今年度の3年生は15人中7名(46.7%)が農業関係に進学・就職が決定した。今後も生徒の農業に対する興味・関心を育むとともに、地元や県内就職を希望する生徒への就職支援や情報提供に取り組んでいきたい。



農大学生寮説明の様子



IPM技術を説明の様子



ソラマメの育種説明の様子



「営農の門出を励ます会」での記念